

協同的な学びによって思考力を高めるときの新聞活用の仕方

指定2年次 木島平村立木島平中学校 浅沼 雅文

(1) 本校の新聞活用（NIE）の現状

本校の学校教育目標は「心と体を開いて学ぶ生徒」であり、目標を具現化するための教育課題を「協同的な学びにより思考活動の質を高める」としています。

「協同的な学び」とは、『聴く・問う』を基盤とする言語活動（対話型コミュニケーション）により、課題について少人数で互恵的に学び合うことです。対話型コミュニケーションが活発に行われるほど、学びに参加している生徒の自己内対話が活発化し、「気づき」が



もたらされていきます。「気づき」を得た生徒は、その後の個人追究、つまり「創造的な学び」（気づきをいかして、既習の知識・技能・見方・考え方を総動員し、一人になって課題を追究した結果、新たな見方・考え方を獲得すること）において対象との対話を深め、最終的には新たな見方や考え方を獲得することができると考えています。

こうした本校の教育目標と、NIEが考える「自律した考える人となる力を育てる」という目標、すなわち、「興味関心」、「問題発見力」、「情報活用力」、「探究力」、「情報を批判的に捉える力」、「社会への提案力」等の能力を育成し、子どもたちがこれから生きていく社会の中で、主体的・合理的に判断し、行動して、より豊かなくらしや社会を築いていくための力を育てるという目標が合致していると考え、NIEに参加をしています。

昨年度は「スクラップ新聞作品をつくろう」をメインに実践し、社会と自分をつなぐ新聞という対象との対話を通して、自分の考えを構築しスクラップ作品という形にして友に発信していきました。その中で、生徒が自己の学びの高まりを自覚し、学んだことの意味や価値を自分の言葉で整理できる力まで高めたいという課題も見えてきました。

(2) 実践のねらい（小中一貫教育の視点から）

1 小中一貫教育の基本構想

本校は、木島平小学校とともに「木島平型小中一貫教育」の試行段階に入っています。学校教育目標を小中学校で共有し、義務教育9年間で「協同的な学び」でつないでいます。

また、教育目標を実現するために、子どもの発達段階に合わせて義務教育9年間で4・3・2のシステムで構成しています。

【一貫教育のシステム】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
区分	← 前期 →				← 中期 →			← 後期 →	
課程	人間としての基礎を培う課程				思考力を培う課程			自立の基礎を培う課程	

協 同 的 な 学 び	◇安心して環境の中で、愛着ある「もの」と一体 になって浸りこむ体験的な学び ◇五感を総動員して「もの、ひと、こと」に働きかけ ていく体験的な学び ◆キーワード【感性】【遊び】 【きめ細かな指導】	◇友と協同したり、自己に問いかけ たりしながらものごとの根拠を探る 学び ◆キーワード【自己内対話】 【自尊感情の高揚】	◇体験を通して発現する 意思を見つめながら 「志」を明らかにする、 自らの生活を拓く学び ◆キーワード【省察】 【個性化】
体 制	学級担任制	一部教科担任制	教科担任制

木島平中学校では、「学びの共同体を基礎に置く学校づくり」の推進と、生徒が「協同的な学び」によって心と体をひらいて学ぶ授業実践を通して、実社会・実生活に生きる力を高めるとともに、自立した学び手を育成する」という小中一貫教育の基本構想に基づいて、中期、後期の生徒が歩むべき教育課程を以下のように具体化しています。

2 「自立した学び手」 について

「自立した学び手」とは、「学ぶこと」が生活、つまり「生きること」の一部として自然な形で位置づいており、自ら課題を見つけ、その課題解決に向けて自ら考えることができる中学生を指していることがわかりました。また、生徒を「自立した学び手」へと導くためには、以下の4つの姿を目指すことが必要であることが見えてきました。

* 「自立した学び手」につながる4つの姿

- ・聴き合う関係をつくる生徒
- ・㊦れいな歌声 ㊦みちな清掃 ㊦ごころ挨拶 を実践する生徒
- ・学んだことの意味や価値を自分のことばで説明できる生徒
- ・明確な根拠に基づいて自分の意思を明らかにし、他とかかわる生徒

以上の姿を学力と関係づけて整理すると下表のようになります。

学力の区分	「目指す生徒像」	学習場面
関係をつくる力	・明確な根拠に基づいて自分の意思を明らかにし、他とかかわる生徒	・総合的な学習 (農村文明塾、職場体験、立志式) ・生徒会活動
基礎・基本の力	・学んだことの意味や価値を自分のことばで説明できる生徒	・教科学習 ・核心をつかむ過程 ・核心の理解を深める過程
基本的生活力	・聴き合う関係をつくる生徒 ・㊦㊦㊦を実践する生徒	・全教育活動 ・清掃、合唱交流 ・部活動

生徒を「自立した学び手」へと導く立場にある木島平中学校では、このように学力を三段重ねの餅のように広く重層的にとらえ、その内容を総称して「実社会・実生活に生きる力」としているのです。それは中学校が、将来にわたって学び続けていくための基礎力として、基本的生活力、基礎・基本の力、関係をつくる力を生徒にバランスよく身に付けさせ、学んだことを生活の中で活用する力を育てる教育の場へと転換していることを意味しています。

3 「総合的な学習の時間」について

木島平中学校では、教科学習で学んだ基礎・基本の力をもとにして関係をつくる力を高めるため、「総合的な学習の時間」を位置づけています。

木島平村は豊かな自然と美しい田園風景に恵まれた村であり、平成21年に開催された「農山村交流全国フォーラム」では、全国にむけて「農村文明」という言葉・価値観が発信されるなど、「農を基軸とした交流の村づくり」を推進しています。また、姉妹都市との交流なども積極的に取り入れることで、観光産業にも力を入れています。こうした郷土のもの・ひと・こととのかかわりと自分をむすびつけることで、関係をつくる力がより一層高められると考えます。



このような村の特性とつける力の関連から、木島平中学校における総合的な学習では、「K J H農村文明塾」のよる地域に根ざした探究型の学習を展開し、新聞づくりを通して学んだことの意味や価値を明らかにしていこうと考えました。昨年度のN I Eの課題を踏まえ、1年生では「ふるさと」と「新聞づくり」をキーワードにした単元展開を構想することにより、自立した学び手への足がかりをつくりたいと実践を進めました。

(3) 研究の概要

1 単元名

「ふるさと木島平新聞をつくろう」

2 単元の構想

中学1年生は木島平型小中一貫教育中期の最終学年にあたり、思考力を培う課程の中で、友と協同したり、自己に問いかけたりしながらものごとの根拠を探る学びを確立するとともに、「自立した学び手」への足がかりをつくる学年となります。

新聞には最新の情報があり、5W1Hを使い詳しく解説がなされています。生徒が直接体験することができない社会のできごとに触れ、学習への興味や関心を高めたり、学んだことを実社会や実生活と結びつけて、より現実的にとらえたり、理解を深めたり発展させたりすることができます。

また、新聞は政治・経済・科学・文化から身近な生活に至るさまざまな分野の話題を見ることができます(一覧性)。さらに、一つの出来事を時系列で追い、多面的に見たりすることもできます(連続性)。そして、気になった記事を手軽に残しておくこともできます(保存性)。このような新聞の特性を生かすことで、課題を見つけ、課題に関連する記事を収集・整理・分析することで、情報活用能力や思考力・表現力を高めることができます。

そこで1年生の総合的な学習では、小学校から継続している協同的な学びを手立てにして、N I Eと連携し、スクラップ新聞づくりと、木島平村に視点をあてたより本格的な新聞づくりを行うことで、思考活動の質を高めつつ、2年生より実施する「K J H農村文明塾」の学習へつなげていきたいと考えました。

本校の授業づくりは、その単元で生徒に養いたい見方・考え方(単元の核心)を決めだし、「核心をつかむ過程」と「核心の理解を深める過程」の2つの学習過程で単元を構想し

ていきます。そこで「核心をつかむ過程」では、スクラップブックを用いた新聞記事収集とスクラップ新聞づくりに焦点をあて、記事収集の仕方や記事の書き方、見出しの意味や決め方などを、NIE推進協議会と連携しながら実践を進めてきました。また、けやき祭での展示や発表を通して新聞づくりで学んだことを明らかにしていきました。このような新聞の基礎・基本を学んだ生徒たちに、「核心の理解を深める過程」では、木島平村へ焦点をあて、農業や観光を軸とした村の文化・産業・農業から各自がテーマを決めだし、取材活動を取り入れることで、より発信性のある新聞づくりを目指します。

以上のように、協同的な学びと新聞づくりを関連づけることで、思考活動の質を高め、2・3年生につながる総合的な学習が展開できることを願い実践を行いました。

【単元構想（指導と評価の構想表）】

単元の核心：「情報を収集・整理することを通して、意図をもって発信すること」

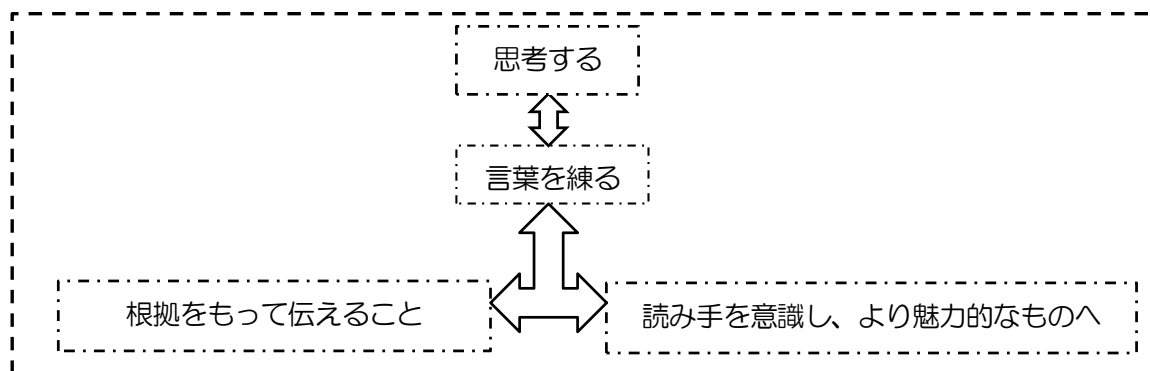
	学習活動	目標	関わる力	情報活用力	意思決定力
単元の核心をつかむ過程	○新聞に親しむ ・読み書きノートの活用 ・興味のある新聞記事集め ○新聞を知る ・新聞の概観・仕組み ・スクラップ新聞の意義 ・記事の収集方法 ・記事の構成の仕方 ・見出しの決めだし ・レイアウトの仕方 ・けやき祭で発表、展示	・新聞の記事などに目をつけ、切り抜いてためたり、テーマごとにまとめる面白さを味わう。 ・新聞を読んだり、自分のことばにすることで、メディアリテラシー（情報判断処理能力）を磨く。	・新聞に関わる記事、記者との出会いを通して、自分から新聞に関わり、新聞への興味や関心を深めていくことができる。 ・友だちや推進委員の方との協同的な学びの中で、新聞の魅力に親しむことができる。	・読み書きノートやスクラップすることを通して、新聞のしくみやつくりを知る。 ・自分のテーマにそったスクラップ新聞づくりを行うことができる。	・スクラップ新聞の中に、自分の気づきや主張をまとめていくことができる。（大見出し、小見出し、まとめ）
核心の理解を深める過程	○新聞をつくり、発信する「誇れるふるさと木島平新聞」づくり ・テーマ設定 ・事前学習 ・現地取材の活動 ・記事づくり ・見出しを決める ・新聞の全体構成 ・新聞の発表 ・新聞づくりのふり返り（学びの意味化）	・木島平村に関わるテーマを各自が選定し、木島平村のよさが伝わる新聞をつくり、地域に発信していく。 ・ふるさと新聞づくりを通して地域理解を一層進め、新聞を地域へ広めていく。	・木島平村の歴史や産業に関心を持ち、それに関わる人や資料から積極的に情報を収集しようとする。 ・新聞づくりを通して、次年度から始まる農村文明塾への意欲を高めることができる。	・情報収集や取材活動を通して得た情報を取捨選択し、新聞づくりに必要なものを検討し決定していくことができる。	・木島平村に関わるテーマを決めだし、取材や情報収集を通して、自分の願いや地域への思いを込めた新聞づくりを進めることができる。
評価方法			・自己評価カード	・スクラップ新聞	・木島平新聞

(4) 研究のまとめ

今年度は「新聞活用」というジャンルにおいて、「新聞づくり」に焦点をあて、単元の核心を軸にした学習過程の中で学ばせました。2つの新聞づくりを縦につなげることで、それぞれの活動が目的となり、次の活動への手段となりました。このような学びの順序を明確にして授業を構想することで、子どもたち自身が新聞のまとめ方を身につけることにつながっていくことがわかりました。

公開授業では、新聞の見出しに焦点をあてた授業を公開しました。友達の新聞記事を読む中で「自分ならどのような見出しをつけるか？」という問いを追究し、情報交換を重ねる中で、最終的に自分の新聞に戻りながらより魅力的な見出しを思考していきました。このような学びが成立した背景には、これまでの新聞づくりの活動から「いい新聞をつくりたい」という共通の願いが子どもたちの中にあったことが大きいことがわかりました。

また、子どもたちのこれまでの学びを通して、「思考すること」は「言葉を練ること」につながり、「言葉を練ること」とは「根拠をもって伝えること」や「相手意識の中でより魅力的なものに工夫すること」につながることがわかりました。



単元の終末場面で行った学びのふり返りの中から生徒の記述のいくつかを紹介します。

- ・新聞自体が毎日家に届いていても、あまり見るのがなかったけど、NIEの学習を通して、新聞を見る機会が増えました。スクラップ新聞では「日本と北朝鮮との関係」をテーマにしました。少し難しいテーマだったけどやりがいがあって、ニュースも頻繁に見るようになったし、歴史も学ぶことができました。見出しを考えると、一文字を変えるだけで、言葉の意味や印象がすごく変わってくることに気づくことができました。いつも何気なく使っている日本語（言葉）でも、少しづつ言葉を変えるだけで伝わり方が変わることがわかりました。
- ・読み手が興味をもってくれそうな小見出しや大見出し……。記事を何度も何度も読んで、その記事に合って、読み手も興味がわいてくるものを考えました。こうした中で最初は「自分が興味をもったもの！」だった新聞が、最終的には「自分以外のたくさんの人に興味をもってもらいたい！」という考え方に変わっていました。
- ・ふると新聞づくりを通して、お店を開いているのには、お客さんのためにたくさんの気配りや工夫をしていることに取材を通して気づきました。そうゆう思いがたくさんの人を集めるのかな……。と思います。自分なりに記事や見出しを考えるのは大変だったけど、友達の考えも参考にしながら自分の考えを明確にすることができました。この新聞づくりの経験は2年生の職場体験などでも役に立つんじゃないかなと思います。

【生徒の授業評価】 (A:とてもそう思う B:そう思う C:あまり思わない D:思わない)

評価項目	A	B	C	D
やる気が高まる授業であったか?	74%	16%	0%	0%
こだわりをもって追究できる授業であったか?	74%	16%	0%	0%
学びをふりかえり納得できる授業であったか?	63%	24%	0%	0%
家でもう一度やってみたい授業であったか?	36%	53%	16%	0%

(5) 残された課題

今回の総合的な学習の時間でのNIE実践で見られた学びの姿は、木島平型小中一貫教育中期のまとめとなる中学一年生の思考力を培う過程を具現化した一つの姿となりました。今年度の課題であった「自己の学びの高まりを自覚させること」は、生徒のふり返りの中にも成果として表れたと思います。

次年度は、

- ・小中一貫教育後期で実施される「K J H農村文明塾」の学習と、より密接にむすびつく単元展開の構想はどうあるべきか。
- ・新聞記事を読み込むための文章読解力をどのように高めていったらよいか。
- ・総合的な学習にとどまらず、教科学習における新聞活用はどのように進めていったらよいか。

などを課題とし、研究を深めていきたいと考えています。

